

全国と東京都の 新型コロナ流行状況

～状況把握のために収集したデータです～

2022/9/16まとめ

羽藤 邦利

新型コロナウイルス流行状況 データ一覧

1. 1週間の新規感染者数と死亡数の推移
2. 死亡数と”死亡係数“の推移
3. 入院治療等を要する人数と「そのうち重症者の割合」の推移
4. 第7波、第6波、第5波まで 年齢区分別の累計死亡数・累計感染者数
5. 各国の流行状況
6. 「厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会」で公表された資料を読む

グラフの中の数値

- 厚労省と東京都から公表されている最新データを、組み合わせ、グラフにしてあります
- 月曜日～日曜日の1週間を集計した数値を用いています
- データは2022年9月11日（日曜日）までの1週間です

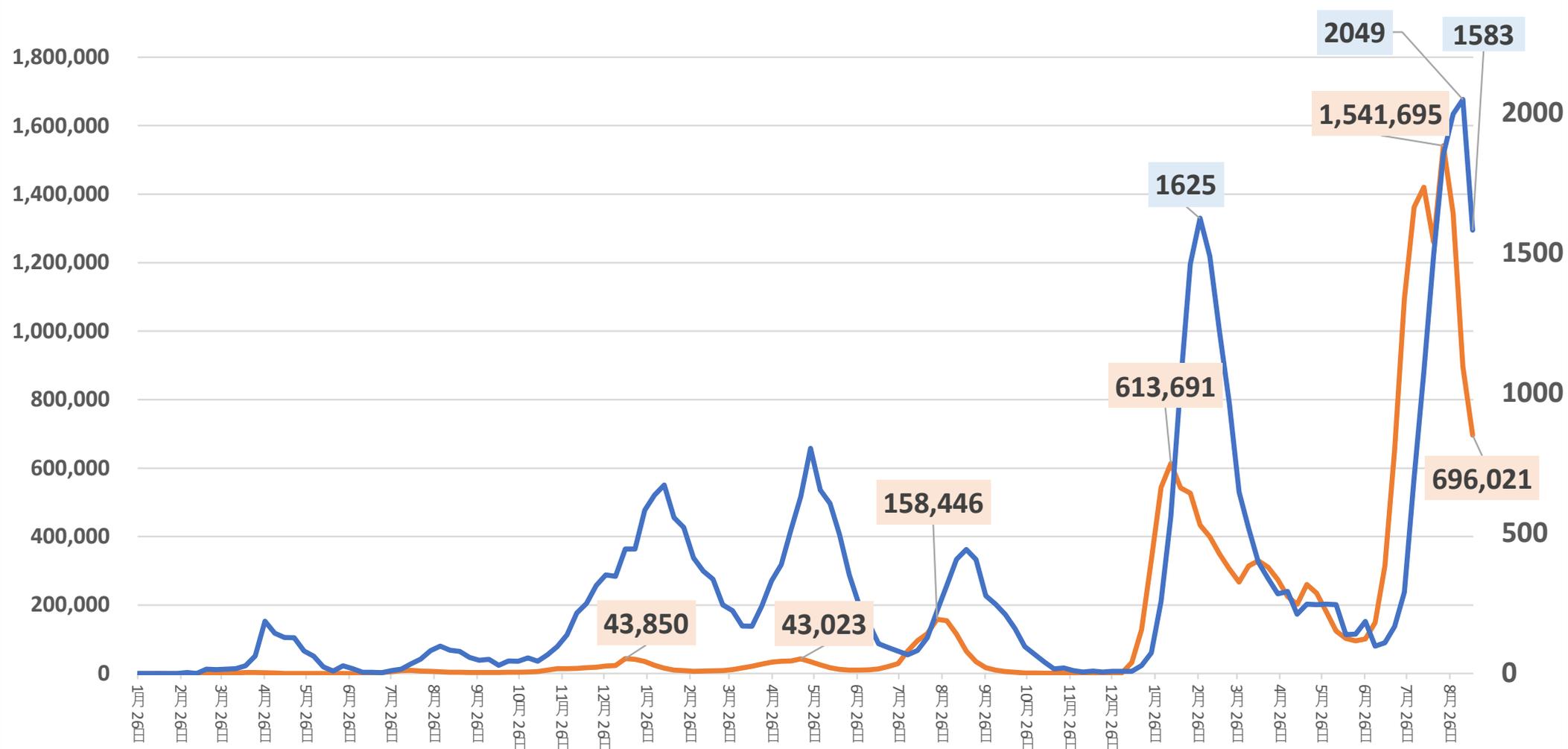
註

新型コロナウイルス感染状況のデータをチェックするには右のサイトが正確で、わかりやすく、便利です

- 札幌医大 フロンティア研 ゲノム医科学
<https://web.sapmed.ac.jp/canmol/coronavirus/japan.html>
- 東洋経済On-Line ; 新型コロナウイルス国内感染の状況
<https://toyokeizai.net/sp/visual/tko/covid19/>
- Johns Hopkins University CSSEE Covid-19 Data
<https://github.com/owid/covid-19-data/tree/master/public/data>

1. 新規感染者数と死亡数の推移

全国 1週間の新規PCR陽性者数 死亡者数の推移



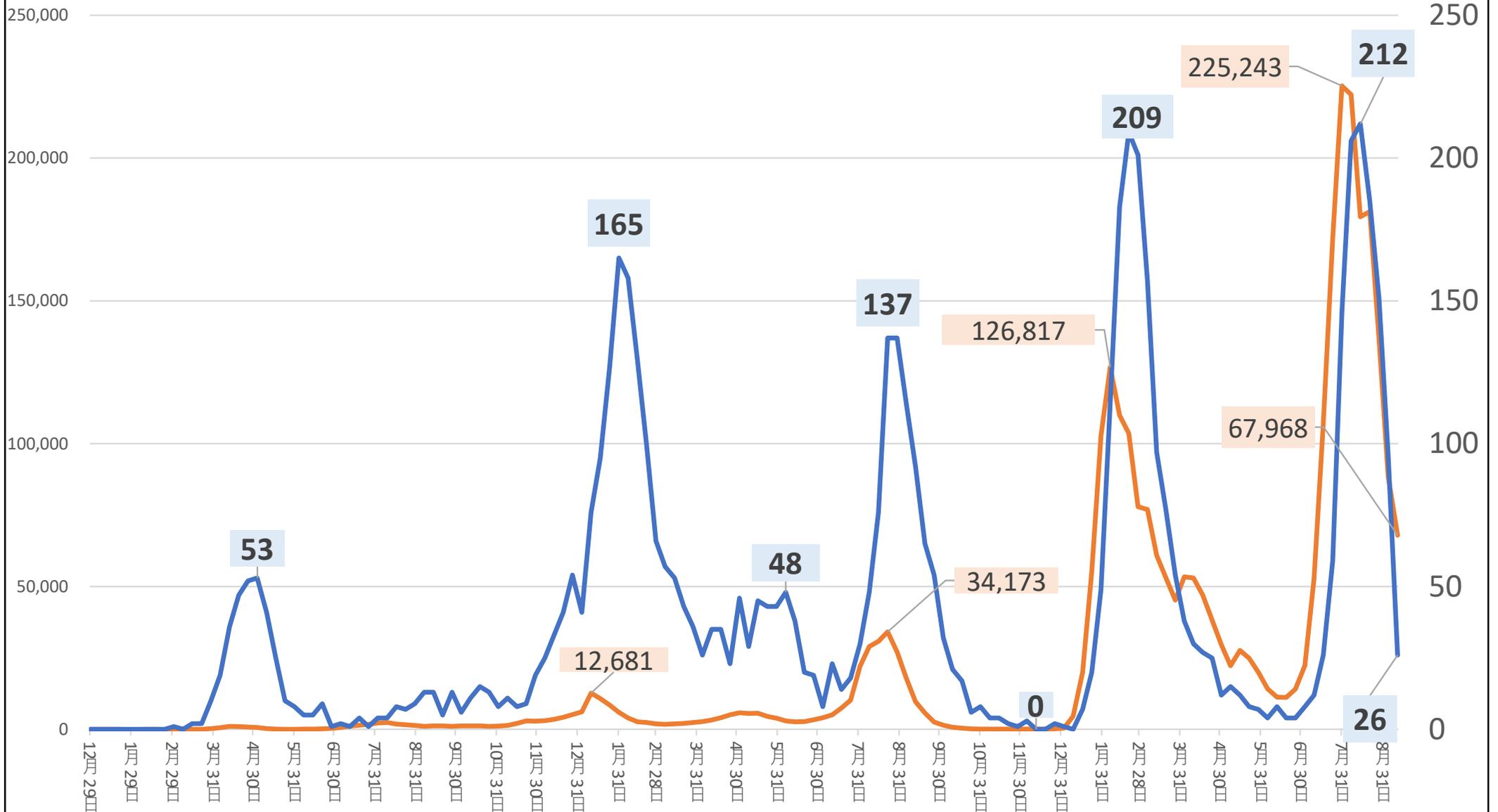
— 1週間の新規PCR陽性者数

— 1週間の死亡者数

東京都

1週間の新規PCR陽性者数

1週間の死亡者数



— 1週間の新規PCR陽性者数

— 1週間の死亡者数

2. 死亡数と”死亡係数“の推移

死亡係数=

2週間の死亡数 / その前の2週間の新規感染者数

1. 第1波～第6波で、新規感染者数がピークをつけてから2～3週後に死亡数がピークをつけていた
2. 発症から死亡まで期間の平均が17.1日～19.5日だった

こうしたことから、ある時点で、“2週間の新規感染者数”を分母に、そのあとの2週間の死亡数を分子にして算定した数字は“2週間の新規感染者”の致死率を反映しているだろう。この数字を“死亡係数”と定義。

全国

1週間のコロナ死亡者数

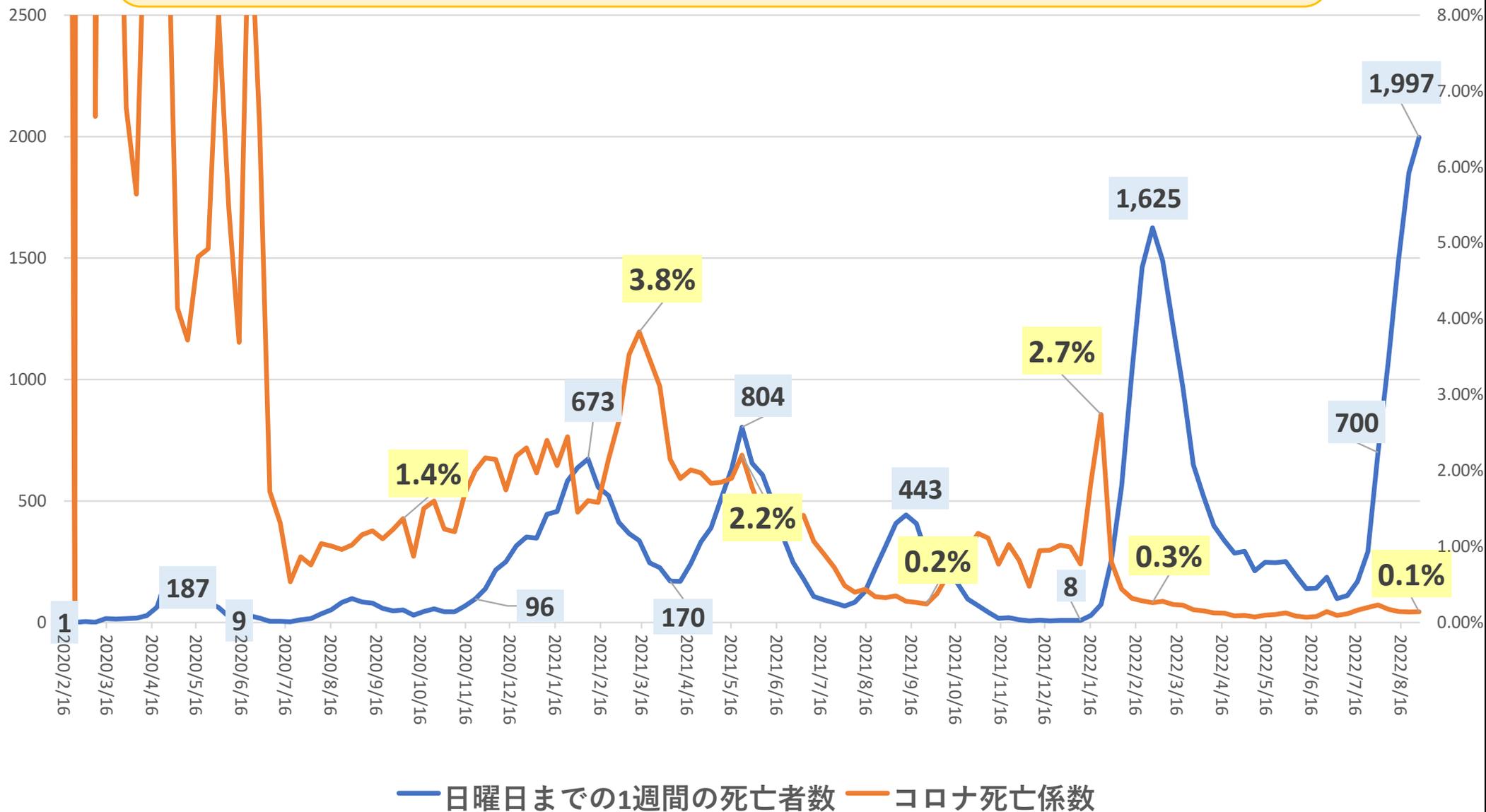
“死亡係数”

推移

“死亡係数”

= 1週間の死亡数 / 中2週間空けて遡った1週間の新規PCR陽性者数

例えば5月3日（日）までの1週間の死亡数144を4月12日（日）までの1週間の新規PCR陽性者数3488で割った数



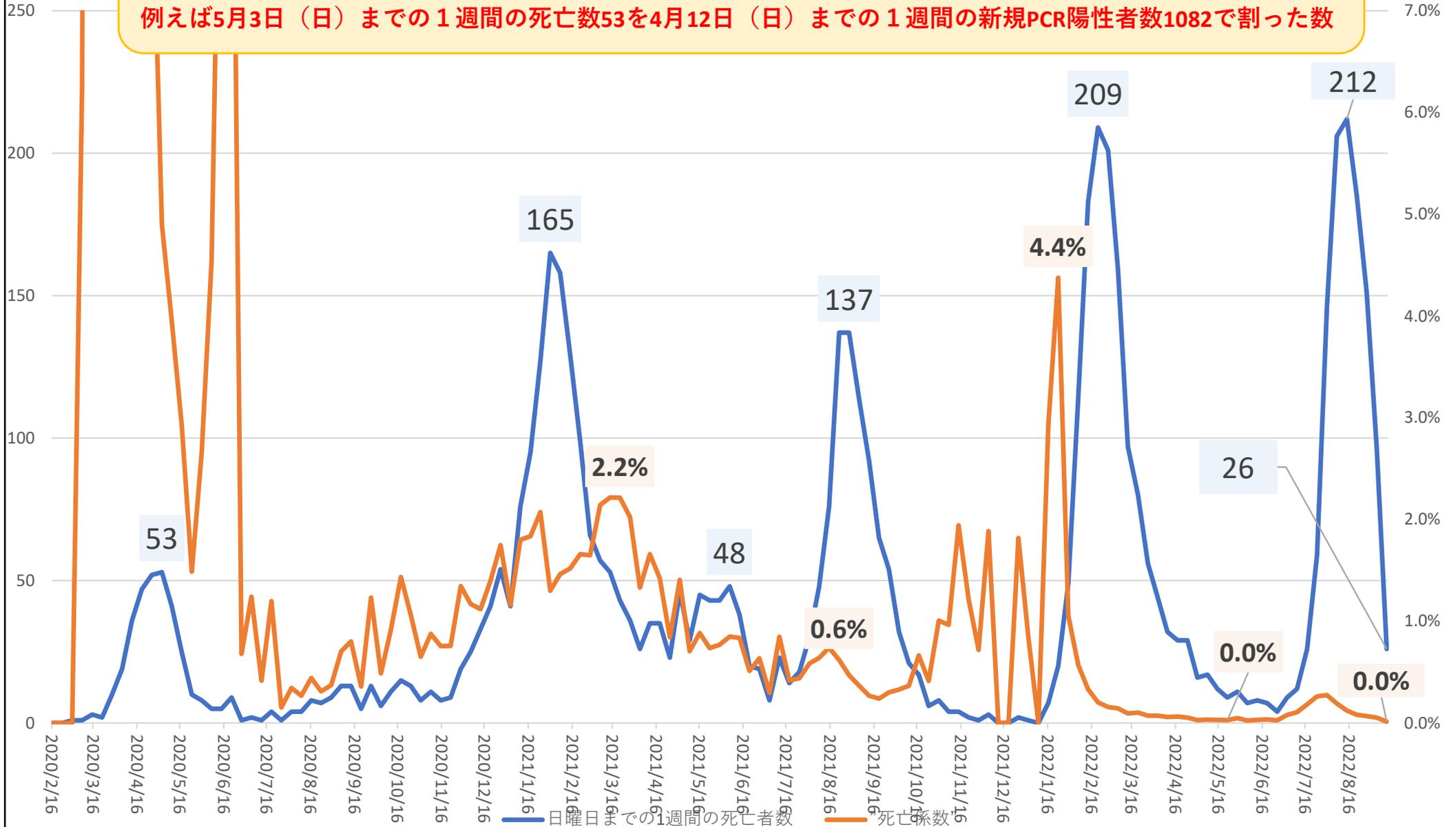
東京都

1週間のコロナ死亡 “死亡係数” 推移

“死亡係数”

= 1週間の死亡数 / 中2週間空けて遡った1週間の新規PCR陽性者数

例えば5月3日（日）までの1週間の死亡数53を4月12日（日）までの1週間の新規PCR陽性者数1082で割った数



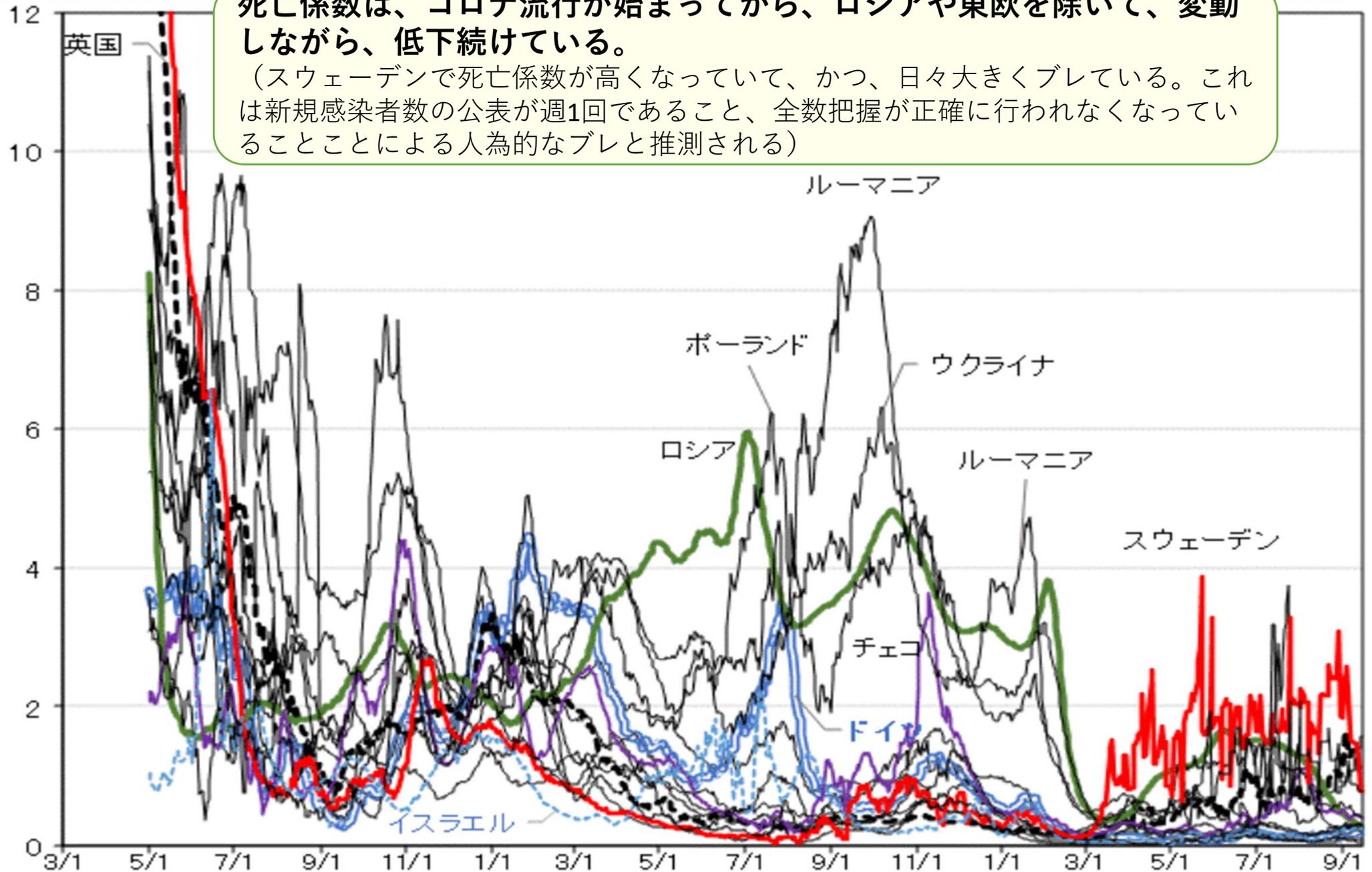
死亡係数 世界各国の推移

過去2週間の死亡数 / 更に3週間遡る2週間の感染者数 × 100

(2022年9月16日更新) (本川裕 社会実情データ図録より)

死亡係数は、コロナ流行が始まってから、ロシアや東欧を除いて、変動しながら、低下続けている。

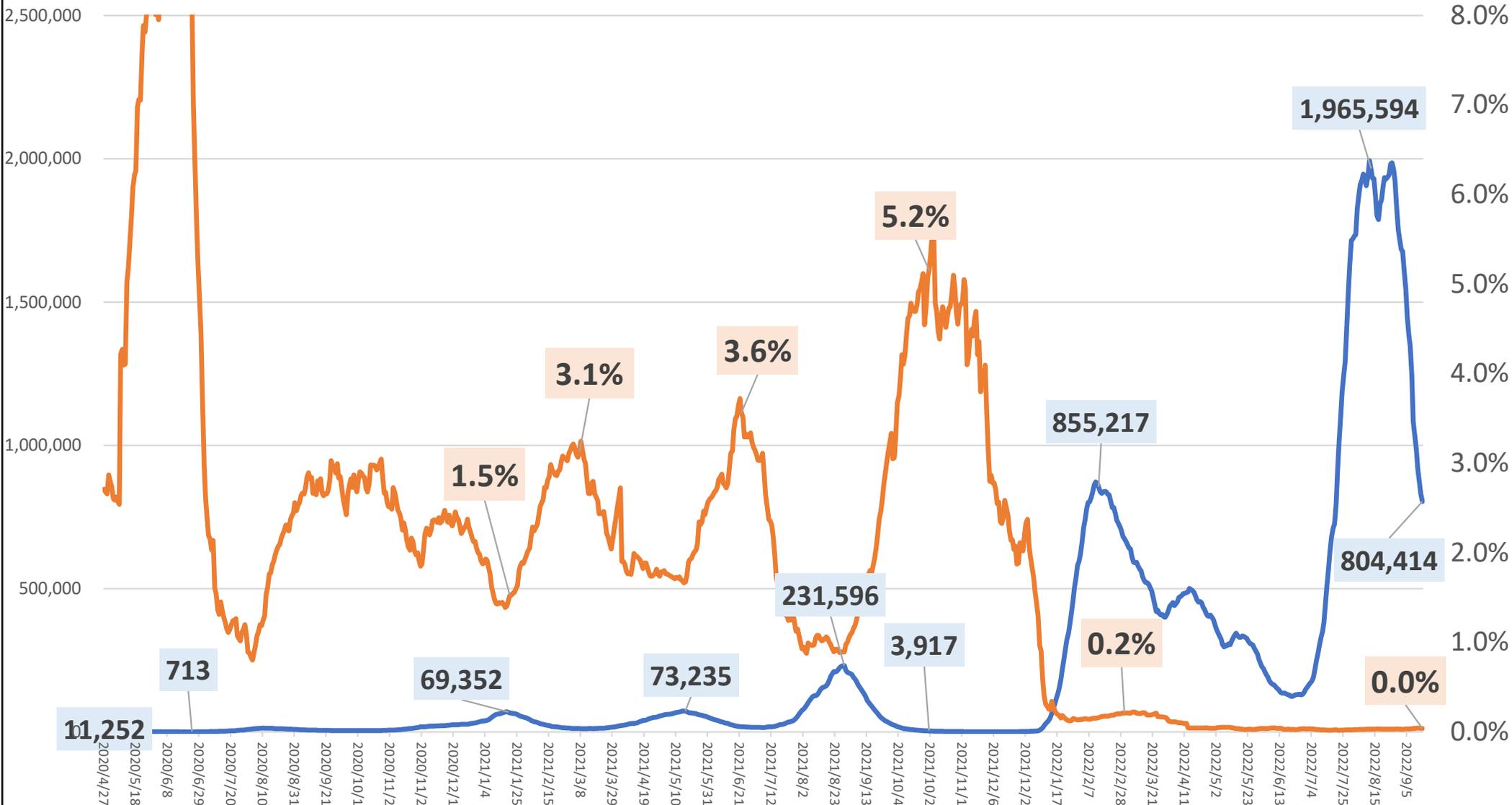
(スウェーデンで死亡係数が高くなっていて、かつ、日々大きくブレている。これは新規感染者数の公表が週1回であること、全数把握が正確に行われなくなっていることによる人為的なブレと推測される)



3. 入院患者数とそのうちの「重症者の割合」

全国

入院患者数 入院患者の重症者割合



— 入院治療等を要する者
 — 重症者の割合

東京都

入院患者数

入院患者の重症者割合



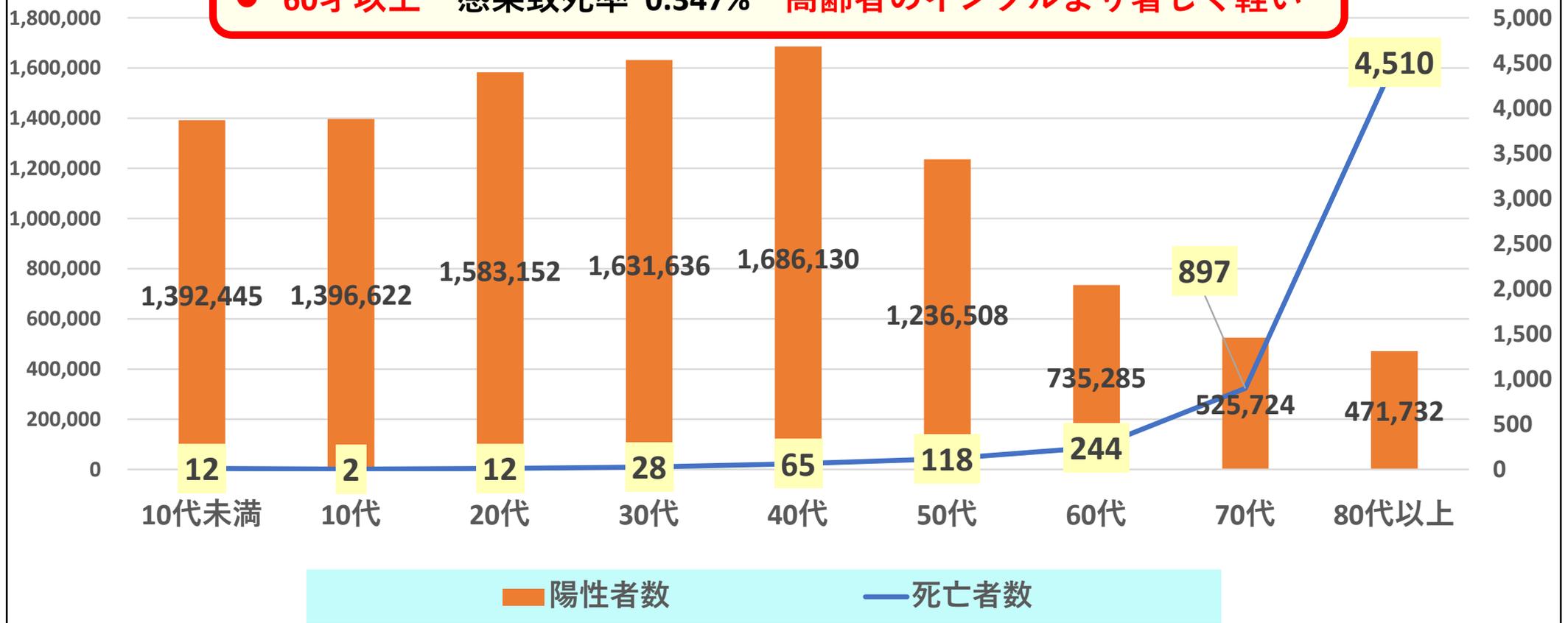
4. 第7波 (2022年6月22日～8月16日)

年齢区分別別の
累積陽性者数と累積死亡数

第7波 累積陽性者数 累積死亡者数 (令和4年6月22日～9月13日)

「新型コロナウイルス感染症の国内発生動向」
(厚労省) をもとに作成

● 49才以下 感染致死率 0.002% 普通の風邪並み
● 60才以上 感染致死率 0.347% 高齢者のインフルより著しく軽い



49才以下の死亡数
119人 (2.0%)

感染致死率 0.002%
コロナ死亡率 0.0002%

感染致死率
= 死亡数 / 感染者数

コロナ死亡率
= 死亡数 / 年齢区分別人口

60才以上の死亡数
5,651人 (96.0%)

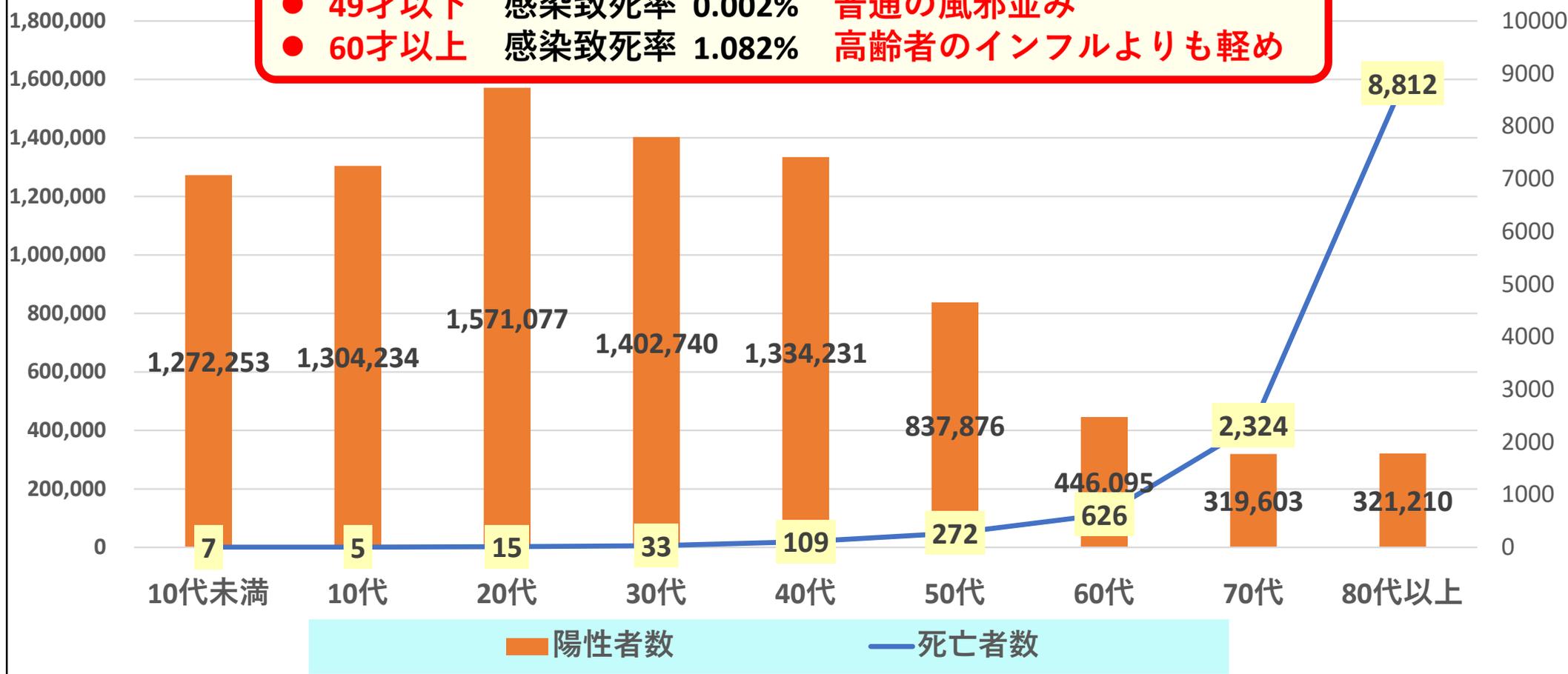
感染致死率 0.347%
コロナ死亡率 0.0129%

比較

第6波 累積陽性者数 累積死亡者数

(令和4年1月4日～6月21日)

● 49才以下 感染致死率 0.002% 普通の風邪並み
● 60才以上 感染致死率 1.082% 高齢者のインフルよりも軽め



49才以下の死亡数
169人 (1.4%)
感染致死率 0.002%
コロナ死亡率 0.0009%

感染致死率
= 死亡数 / 感染者数
コロナ死亡率
= 死亡数 / 年齢区分別人口

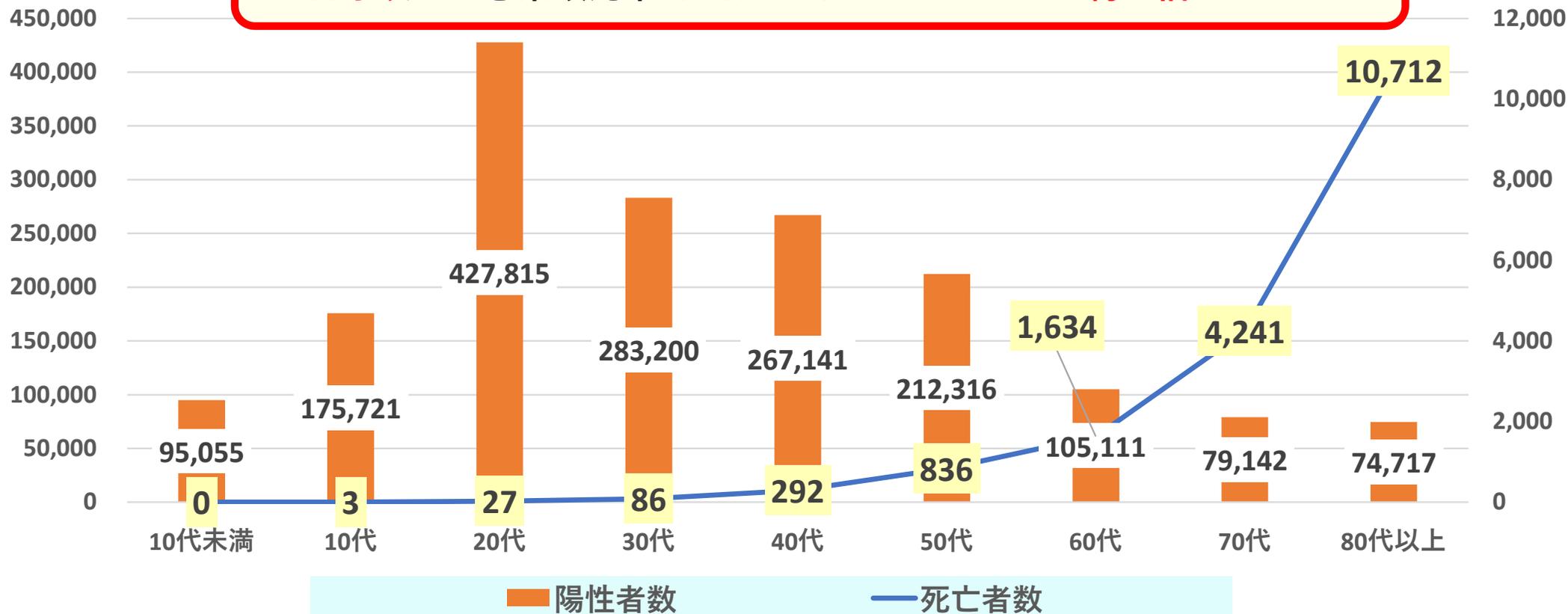
60才以上の死亡数
11,762人 (96.4%)
感染致死率 1.082%
コロナ死亡率 0.0263%

比較

第1波～第5波 累積陽性者数 累積死亡者数

(令和4年1月4日24時時点)

- 49才以下 感染致死率 0.03% インフルエンザ並み
- 60才以上 感染致死率 6.46% インフルエンザの約3倍



49才以下の死亡数
408 人 (2.3%)

感染致死率 0.03%

コロナ死亡率 0.0006%

感染致死率
= 死亡数 / 感染者数

コロナ死亡率
= 死亡数 / 年齢区分別人口

60才以上の死亡数
16,587 人 (93.0%)

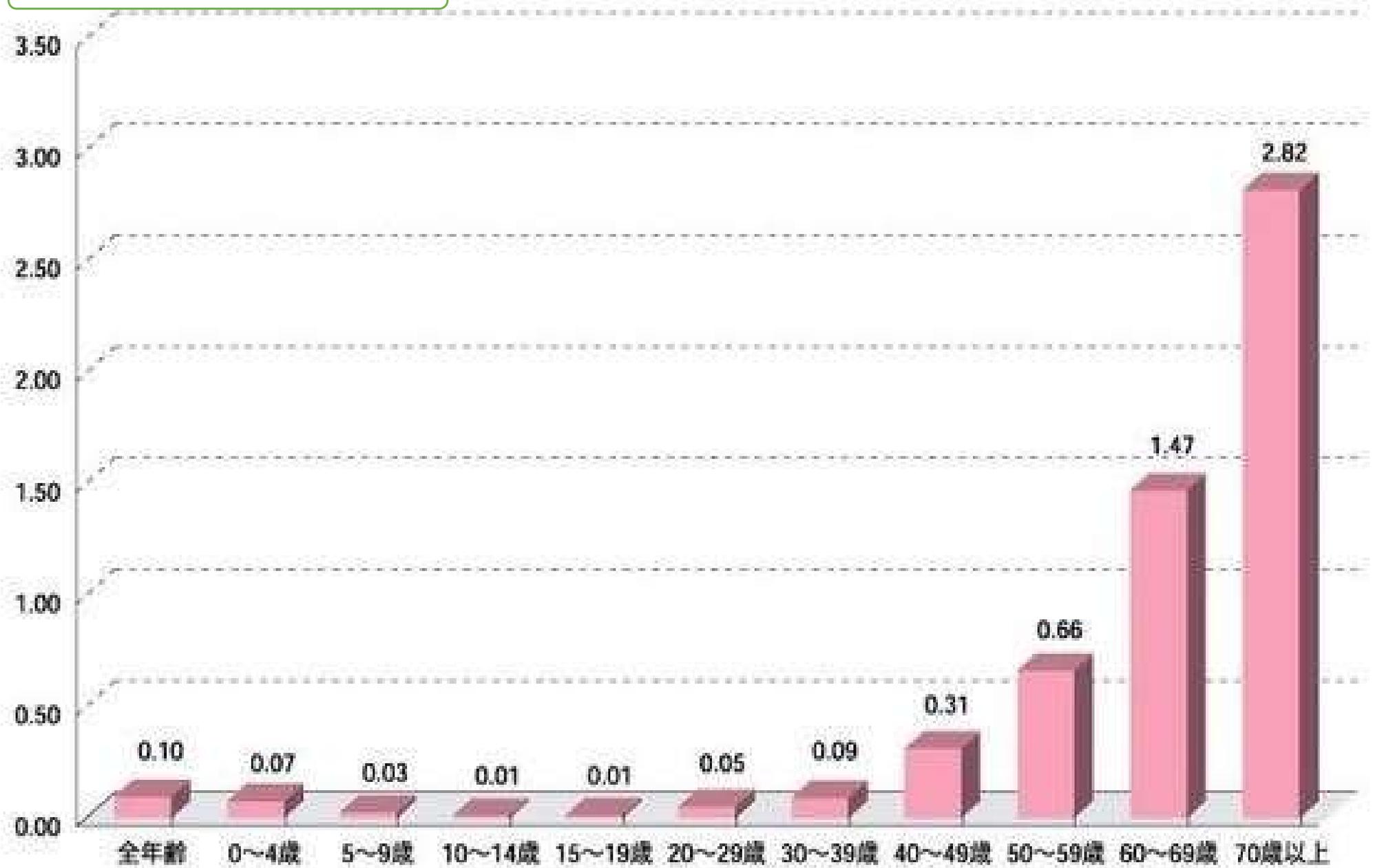
感染致死率 6.46%

コロナ死亡率 0.0379%

インフルエンザの年齢群別致死率（推計受診患者（暫定値）1万人当たり）

（2009年7月28日～2010年3月16日）

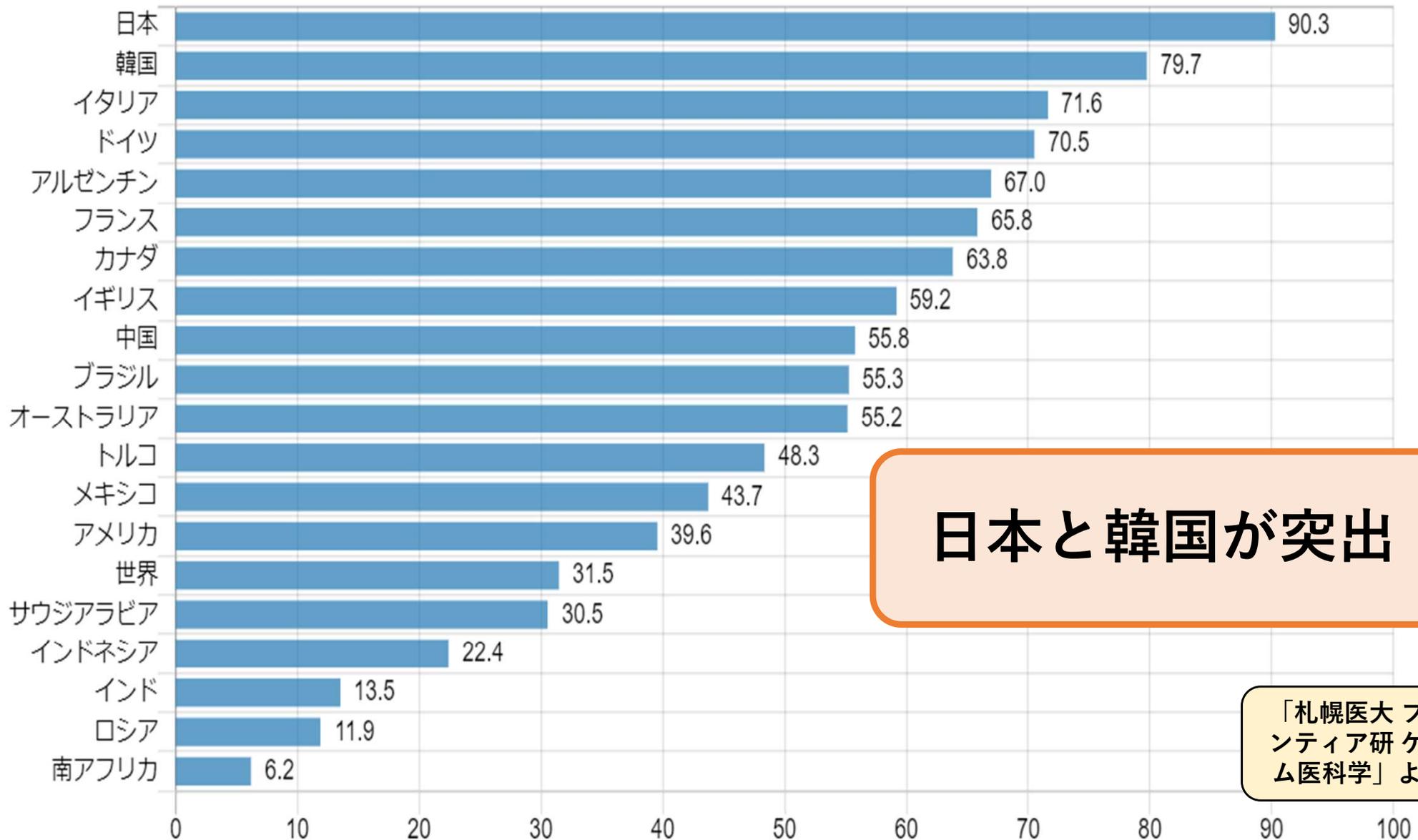
出典；国立感染症研究所



各国の流行状況

各国のワクチン追加接種率

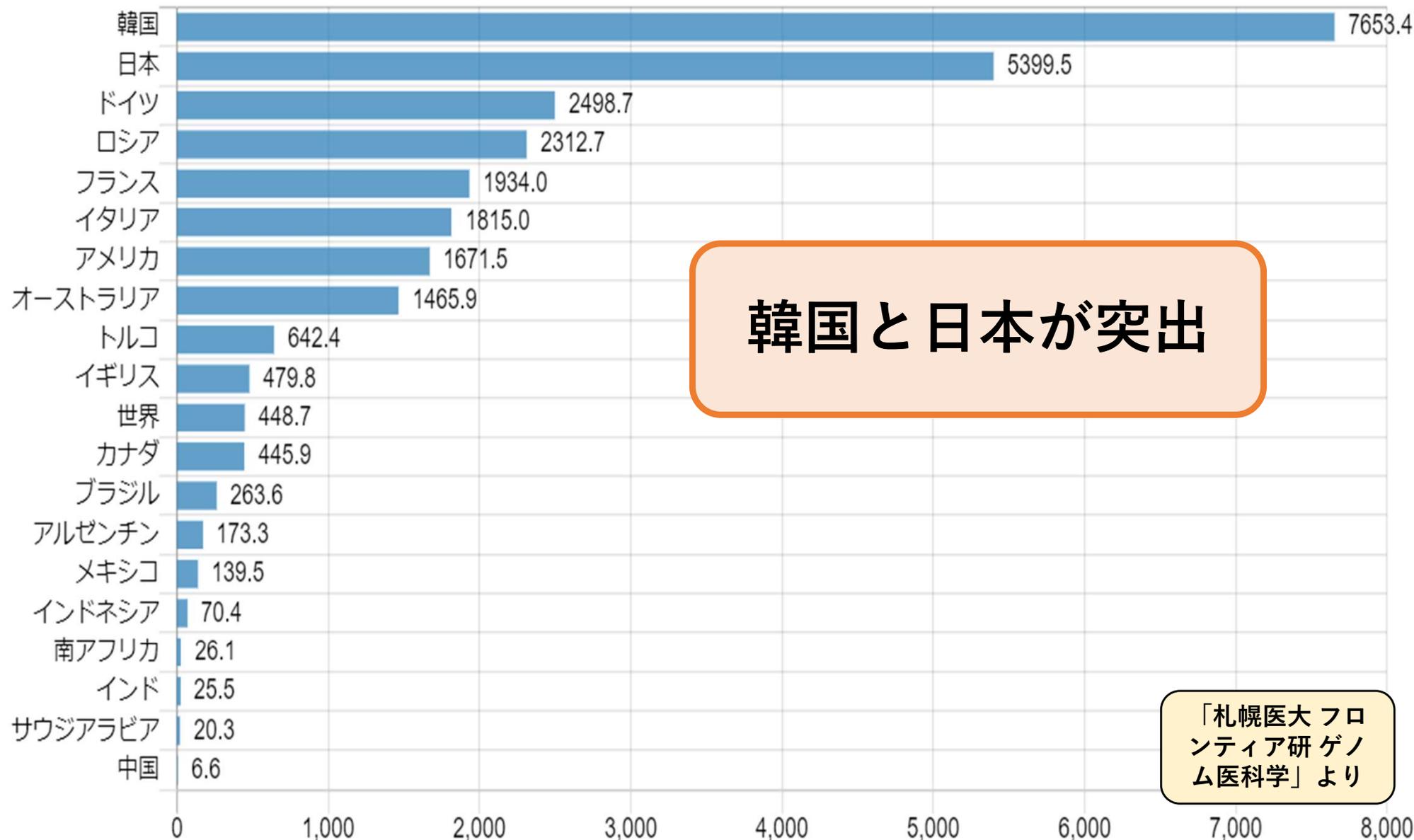
2022/09/15現在



日本と韓国が突出

「札幌医大 フロ
ンティア研 ゲノ
ム医科学」より

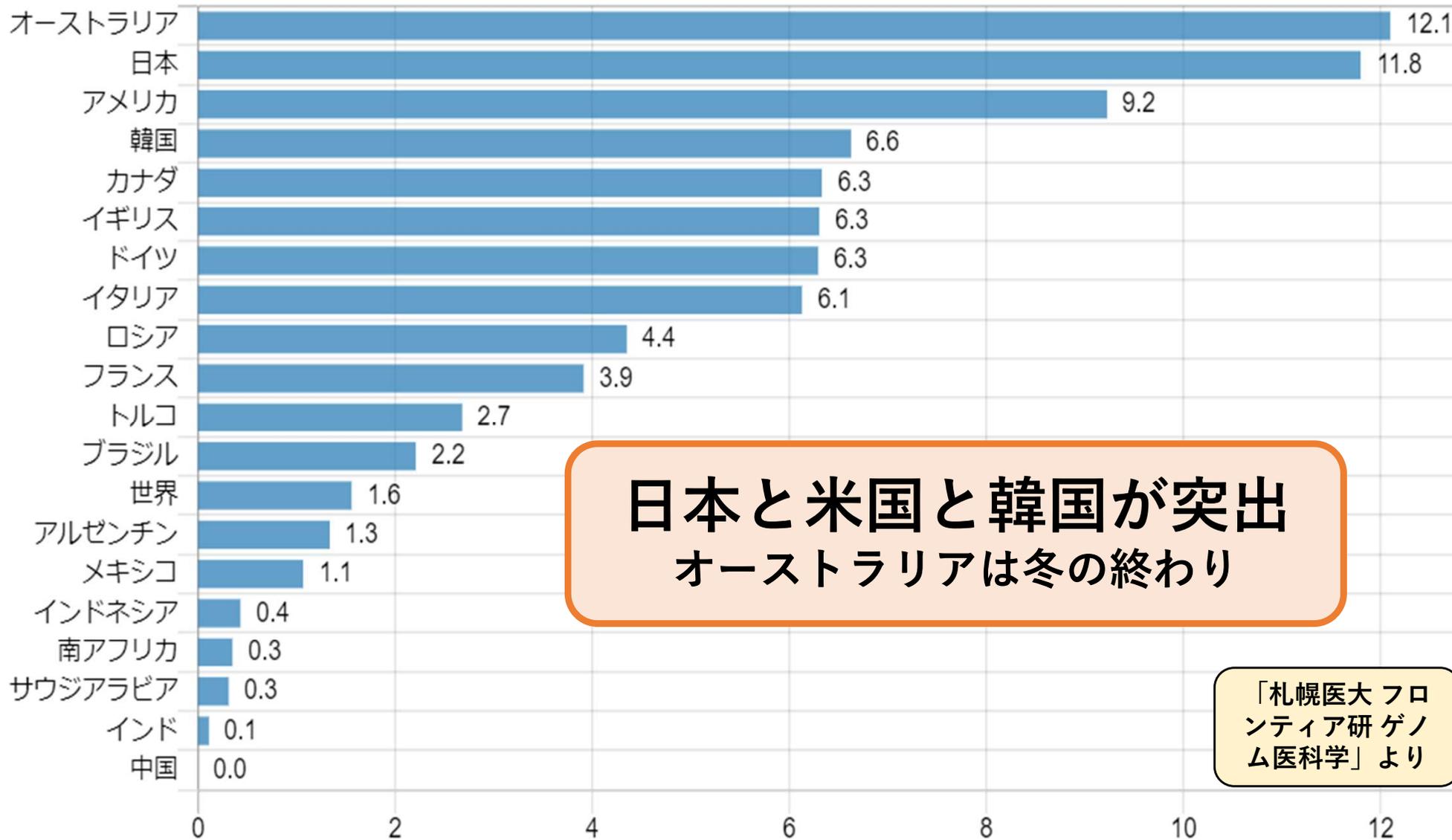
過去1週間・人口100万人あたりの新規感染者数 2022/09/12現在



韓国と日本が突出

「札幌医大フロンティア研ゲノム医科学」より

過去1週間の人口100万人あたりの新規死者数 2022/09/12現在

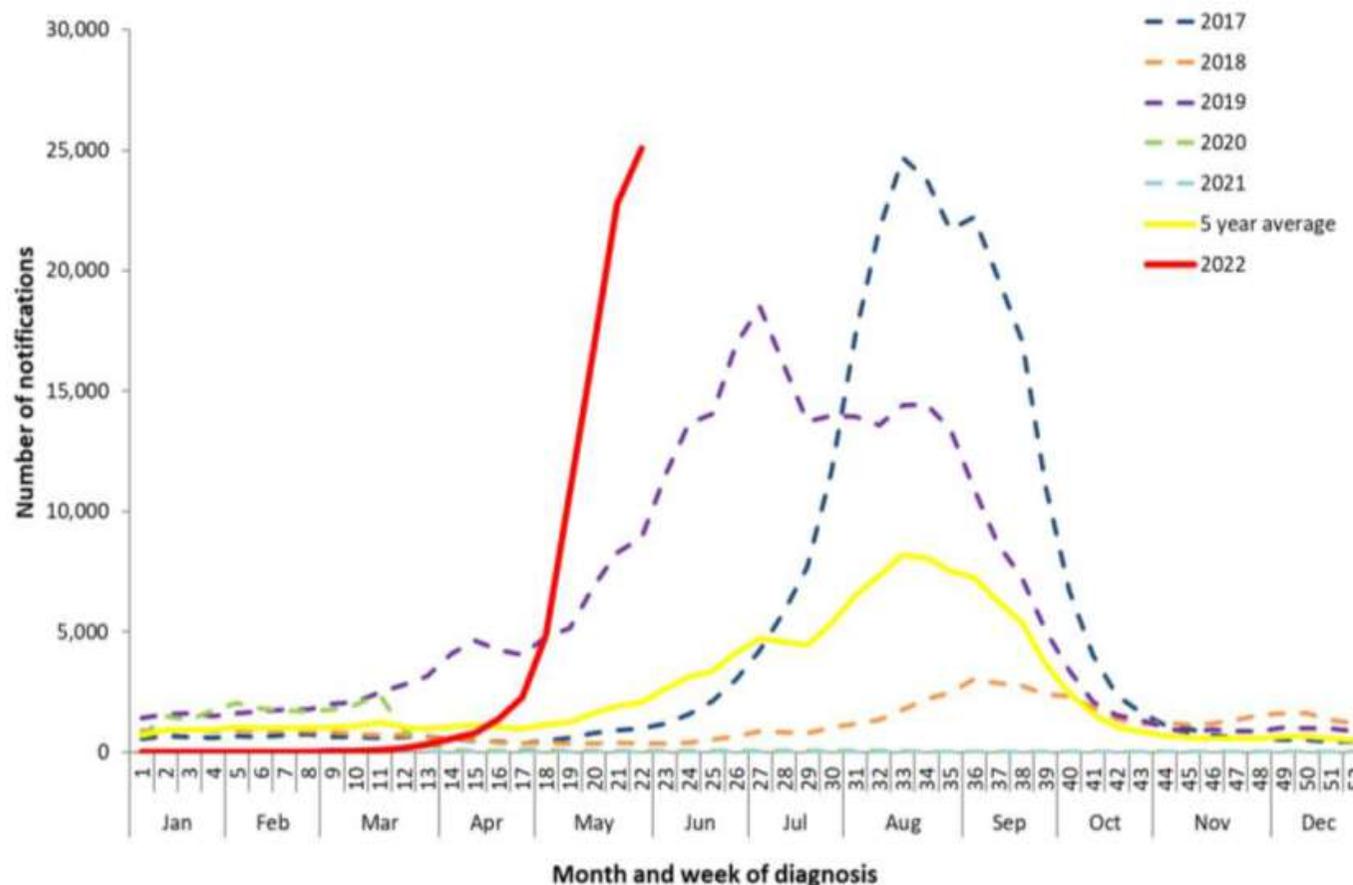


日本と米国と韓国が突出
オーストラリアは冬の終わり

「札幌医大フロンティア研ゲノム医科学」より

オーストラリアは、今、冬の終わり コロナとインフルエンザが同時流行

オーストラリアにおけるインフルエンザ検出数（2017年1月1日～2022年6月5日）



- インフルエンザの検出数は、2022年4月中旬から過去5年平均を上回っている。
- 5～19歳、5歳未満の子供で検出率が高い。
- 検出されたインフルエンザのうち90%がA型で、10%は型別不明。
- A型インフルエンザの内訳
 - 〔 H3N2：4.6%
 - 〔 H1N1pdm09：0.9%
 - 〔 サブタイプ不明：94.5%

東京都健康安全研究センターのホームページより

Australian Influenza Surveillance Report - No 05 - fortnight ending 05 June 2022
<https://www1.health.gov.au/internet/main/publishing.nsf/Content/ozflu-surveil-no05-22.htm>

ワクチン接種の 効果とデメリット

国のデータで、ワクチン接種によって却って感染しやすくなっている

第9696回（令和4年8月24日）
新型コロナウイルス感染症対策ア
ドバイザリーボード

ワクチン接種歴別の新規陽性者数（8/8-8/14）

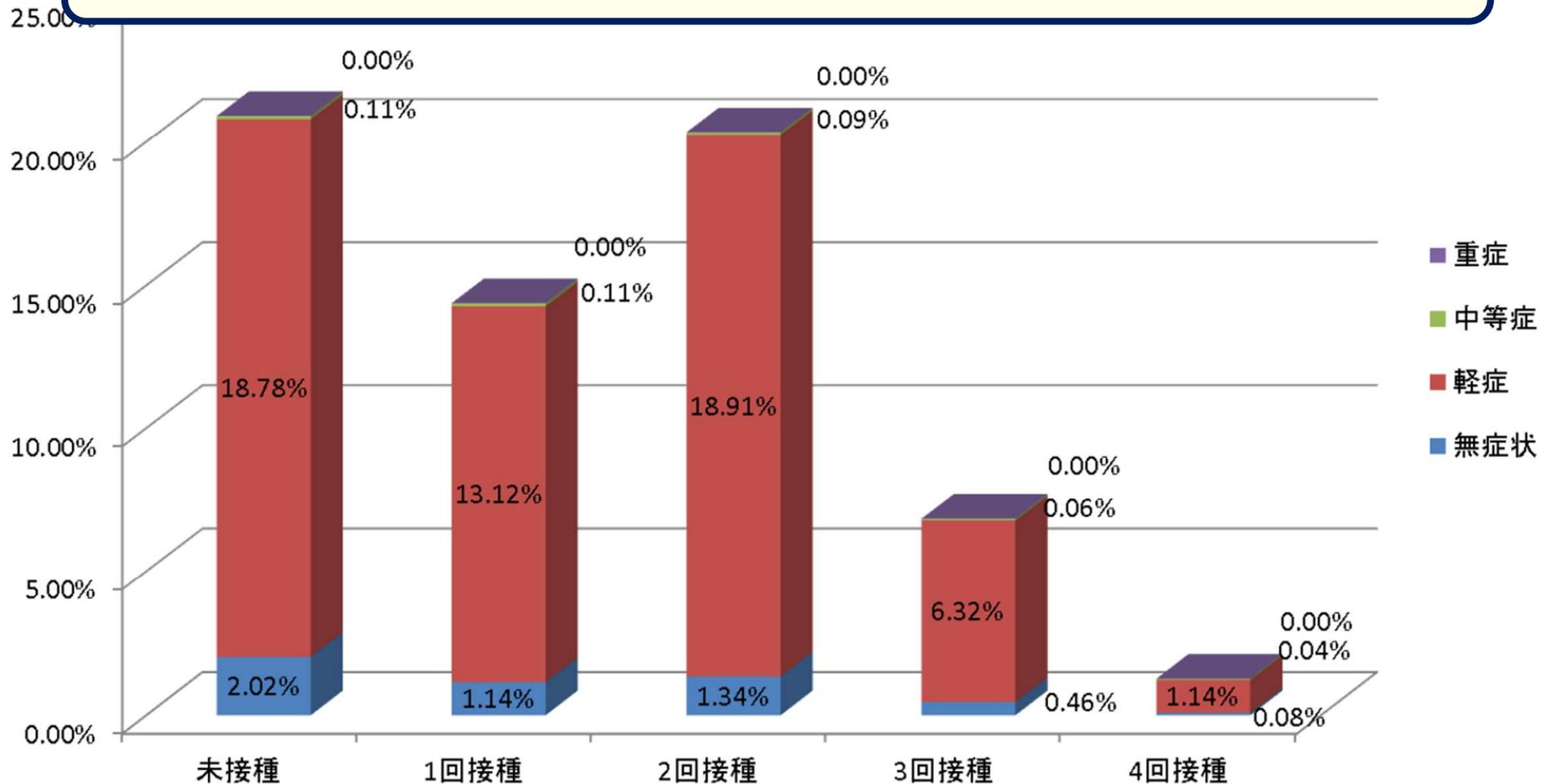
	未接種			2回目接種済み (3回目接種済みを除く)			3回目接種済み			接種歴 不明
	新規 陽性者数 (8/8- 8/14の 合計)	未接種 者数 (8/14時点)	10万人 あたりの 新規 陽性者数	新規 陽性者数 (8/8- 8/14の 合計)	2回目 接種者数 (3回目接種 者数を除く) (8/14時点)	10万人 あたりの 新規 陽性者数	新規 陽性者数 (8/8- 8/14の 合計)	3回目 接種者数 (8/14時点)	10万人 あたりの 新規 陽性者数	新規 陽性者数 (8/8- 8/14の 合計)
0-11歳	121,664	10,610,422	1146.6							
12-19歳	20,595	2,197,726	937.1	33,113	3,422,045	967.6	20,821	3,308,857	629.3	28,063
20-29歳	24,974	2,401,108	1040.1	45,175	4,029,974	1121.0	59,299	6,291,390	942.5	38,968
30-39歳	23,622	2,826,327	835.8	42,912	3,895,228	1101.7	72,011	7,573,408	950.8	43,954
40-49歳	18,742	3,170,181	591.2	37,286	3,905,888	954.6	89,243	11,279,654	791.2	43,644
50-59歳	11,516	1,211,182	950.8	18,811	2,369,242	794.0	81,556	13,184,144	618.6	31,741
60-64歳	3,013	609,969	494.0	3,815	549,736	694.0	31,610	6,238,222	506.7	10,923
65-69歳	2,041	1,051,695	194.1	1,981	336,567	588.6	25,974	6,696,124	387.9	8,195
70-79歳	3,109	858,643	362.1	2,746	547,920	501.2	42,624	14,787,828	288.2	13,980
80-89歳	2,157	27,440	7860.8	2,011	377,492	532.7	26,291	8,622,528	304.9	10,177
90歳以上	980	-	-	797	128,002	622.6	11,625	2,273,161	511.4	4,891

令和4年1月1日～令和4年8月24日の陽性者のうち、ワクチン接種の状況や陽性判明時点の症状が確認できた81,174件について分析

(浜松市のホームページより

<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/koho2/emergency/covid-19/index.html>)

オミクロンは、ワクチン接種の有無や回数に関係なく、殆どが軽症。重症化を防止するためにわざわざワクチン接種する必要があるのだろうか？



ワクチン接種後の重篤な副反応と死亡

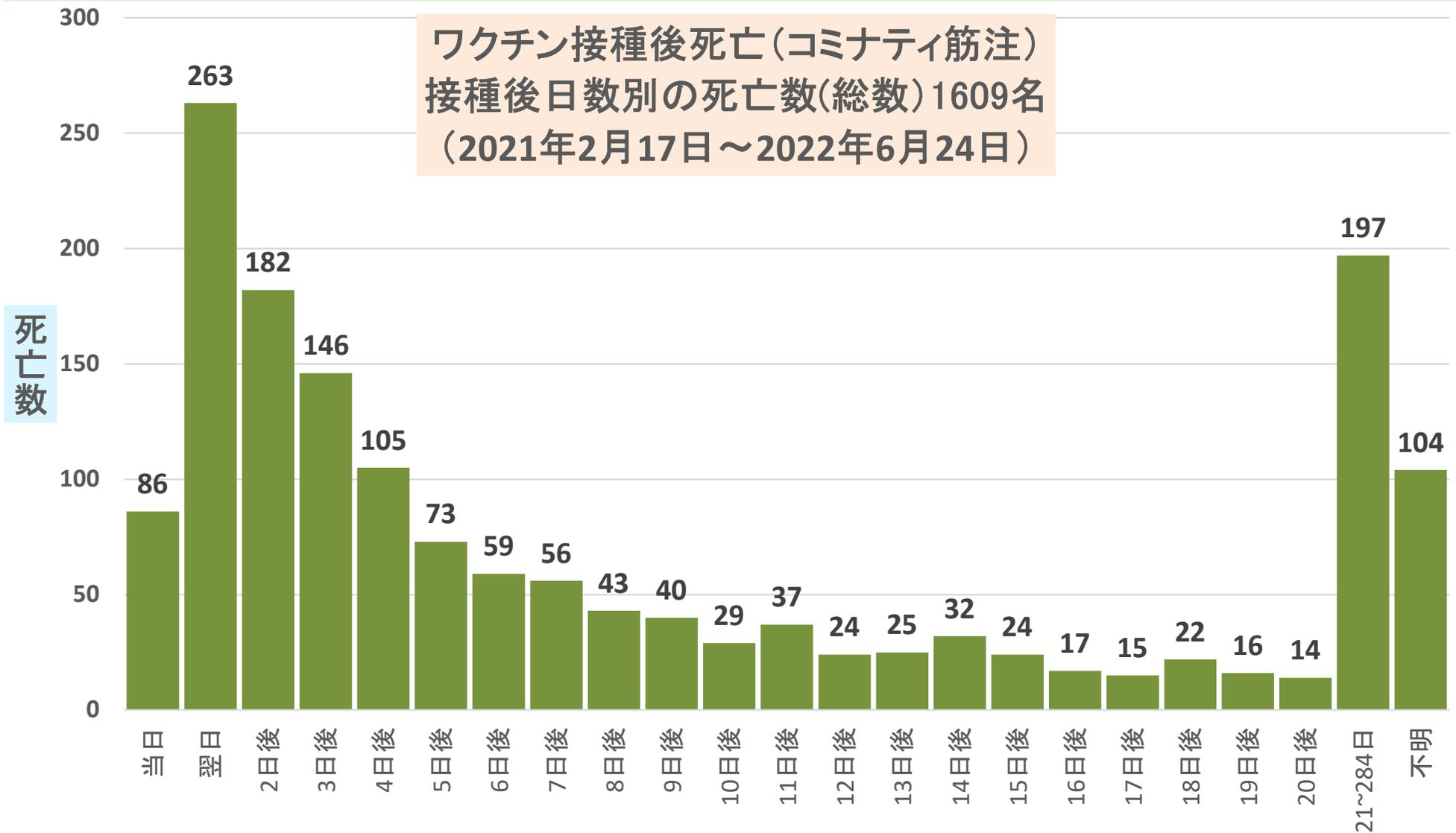
第82回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会／令和4年度第8回薬事・食品衛生等安全対策部会安全対策調査会（令和4年8月5日）

コロナワクチンは重篤な副反応がとても多い

年齢階級	コロナワクチン 重篤副反応 2021/2/17 ～2022/7/10	コロナワクチン うち死亡数 2021/2/17 ～2022/7/10	コロナ死亡数 2021/5/12 ～2022/7/12
0～9歳	17	0	7
10～19歳	499	9	8
20～29歳	807	33	39
30～39歳	847	35	100
40～49歳	1,056	57	321
50～59歳	863	90	887
60～69歳	777	121	1,540
70～79歳	1,101	314	4,253
80歳以上	1,612	701	13,268
合計	7,579	1,360	20,423

コロナワクチン接種後死亡について

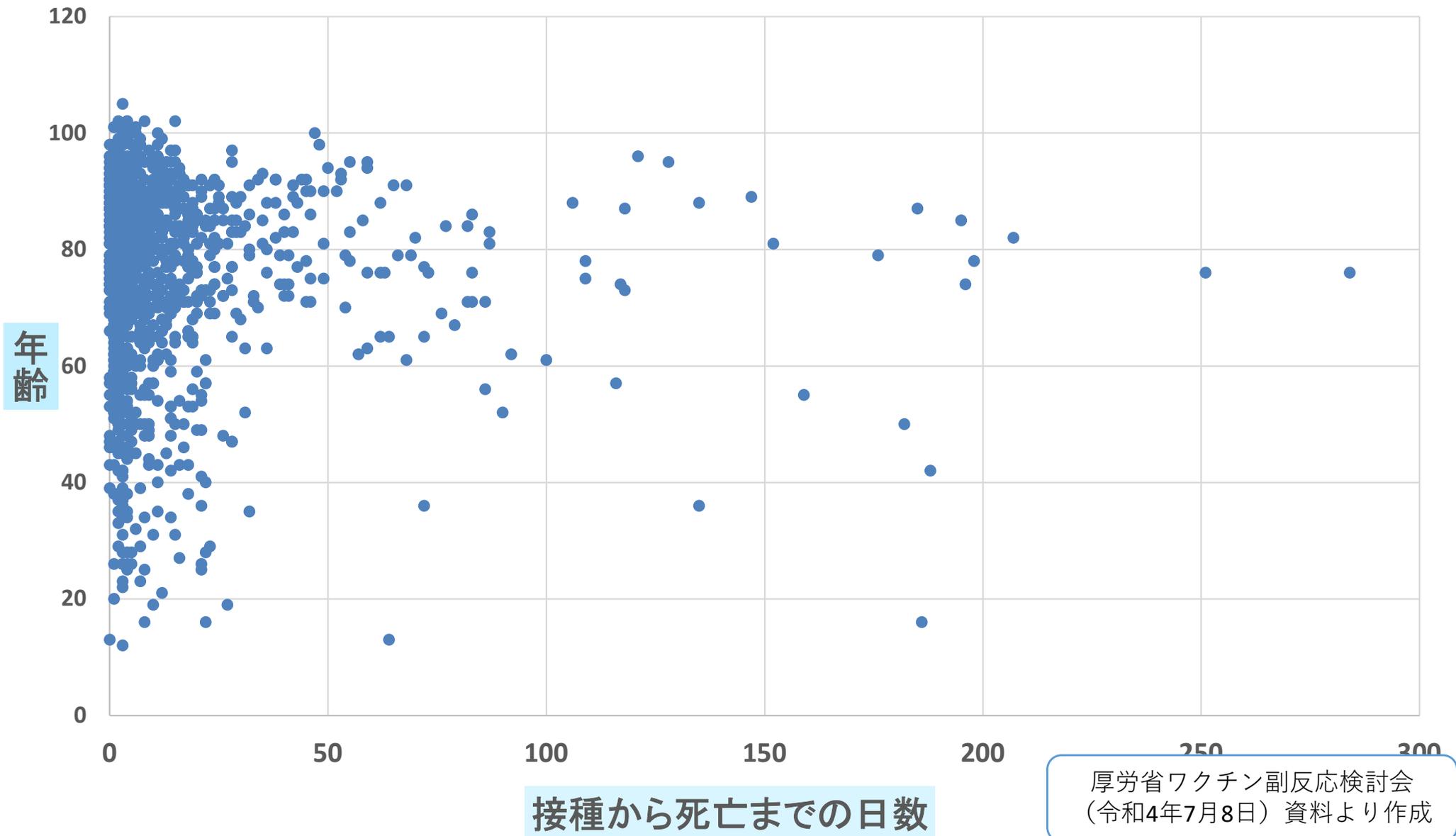
ワクチン接種後の経過日数別の死亡数 (ファイザー製ワクチン コミナティ筋注の場合)



ワクチン接種後の経過日数

厚労省ワクチン副反応検討会
(令和4年7月8日) 資料より作成

「年齢と経過日数」の散布図 (ファイザー製ワクチン コミナティ筋注の場合)



- ワクチン接種から死亡までの経過日数のグラフをみると、ワクチン接種との死亡との因果関係が濃厚に疑われる
- 「因果関係を認めない」とした「根拠～判断基準」を公表してほしい
- 「治験段階のワクチン」だから、接種前の検査、接種後の定期的検査、重大事象の報告義務、接種後死亡例の剖検を行う必要があったのではないか